

第2章 研究の方法

本章では、まず既往の研究を参考として、ガーデナーの意識特性について明らかにし、続いて花かざりコンクール一次審査通過者の意識特性についての調査方法を述べる。

2-1 既往文献にみるガーデナーの庭づくりへの意識とガーデナータイプ

「作品」を競い合うコンクールの一次審査を通過した集団は、景観面での技術レベルの高さをはじめとし、ガーデニング愛好者（一般ガーデナー）の中ではやや特殊な集団であると思われる。そのため、一次審査通過者と一般ガーデナーの関係に考慮しながら、意識特性についての考察をおこなう。

一般ガーデナーの意識特性の把握については、既往文献を参考に考察を行った。ガーデナーの意識特性について論じたものがあるが¹⁾、特にガーデナーの類型化について論じている下記の二つに注目した。類型化に注目した理由は、タイプに類別することによって、ガーデナーが抱く様々な意識の違いをより明確にし、それらから全体の意識特性を考察することが可能であると考えたためである。

林ら²⁾は「ガーデニング愛好者」を対象として、タイプ分けを試みている。どう研究における「ガーデニング愛好者」とは、「花や緑に関する講座の受講者」を指し、比較的熱心に庭づくりに取り組むガーデナーであると推測される。ここで、タイプ分けの基準として用いられたものは、「ガーデニングの目的」である。「庭のベランダの美化」、「道行く人の癒し」、「街を美しくしたい」、「知人・友人との交流」といった景観形成に寄与する項目に焦点を当て、対象者を「まちづくり支援型」と「趣味中心型」の2タイプに類型化している。タイプ別の特色を以下の表にまとめた（表2-1）。

表2-1 ガーデニングの目的からみるガーデナーのタイプ分け²⁾

		タイプ	
要素		まちづくり支援型 (326人)	趣味中心愛好型 (227人)
属性	概要	街の美化や知人との交流を通してガーデニングを行うグループ	ガーデニングを実用目的あるいは個人趣味として捉えながら内面的効果を高めているグループ
	性別	女性の比率が高い (63.5%)	男性の比率が高い (55.5%)
	年齢	40、50代が比較的高い	に比べわずかの差で20、30代が高くなっている
	職業	自営業、専門職、専業主婦、パート	時間的に制約のある会社、公務員など勤めの人、学生、退職後と思われる無職の人
	居住形態 (戸建て住宅・集合住)	93.5 : 5.8 (%)	84.5 : 14.5 (%)
	地域用途	農村地域の比率がやや高い	新興住宅地の比率がやや高い
	家族構成	に比べ二世帯以上の比率がやや高い	に比べ小世帯の比率がやや高い
ガーデニング歴ときっかけ	活動年数	統計的な違いは見られない	統計的な違いは見られない
	きっかけ	心の豊かさを重視する生活指向 (行動要因として他人の庭の鑑賞やコンクールへの参加)	育った家庭の環境、本や雑誌
講習会への参加と内容	関心	自宅の庭のデザイン、環境保全、花や緑を使ったまちづくり	土づくり、植物の種類等
住まいのまちづくり状況・意識	地域状況	自治会活動が盛ん・地域緑化活動が活発	
	意識状況	地域活動に活発的、花づくりを通じた友人が多い、花や緑関係のボランティアに興味がある、近所と苗を交換する	

また、川根ら³⁾は花づくりが盛んな北海道恵庭市の一般住民を対象とし、庭づくりに関する動機の中から「精神的充足」、「交流」、「食べ物」という3つのカテゴリーを用いてクラスター分析を行い、ガーデナーを4タイプに分類している。以下の表はタイプの特徴をまとめたものである(表2-2)。

			タイプ			
要素			Aタイプ(63人)	Bタイプ(87人)	Cタイプ(116人)	Dタイプ(167人)
庭づくりへの意識	動機	精神的充足	低	やや高	高	やや高
		交流	低	低	やや高	やや高
		食べ物	低	高	低	高
	年齢層などの特徴		比較的若い世代 子供がまだ小さい ・フルタイムの仕事	パートが多い	専業主婦、無職	専業主婦、無職
	庭づくりへの関心		少し関心がある	少し関心がある	特に高い	特に高い
	住宅や庭をつくる際の取り 困った点やマイナスの点		関心がない	否定的	肯定的	肯定的
	これからの庭づくりについて		庭の広さや庭についての知識は望まない		費用	費用
	庭の働きについての認識		駐車、物置など実用的な場	食べ物の栽培、実用、鑑賞	周囲の景観に対し積極的な意識	食べ物の栽培、実用、鑑賞 ・2よりも熱し、街の景観に対して積極
庭づくりへの取り組み	自然的嗜好		除草剤の使用頻度比較的多い	・鶏糞、家庭で作った堆肥の使用 ・自然的嗜好が強い		・鶏糞、家庭で作った堆肥の使用 ・自然的嗜好が強い
	見た目の美しさへの配慮			自宅から見て美しいように多い	自宅と道路両方から見て美しいように多い	自宅と道路両方から見て美しいように多い
	苗や種のやりとり		周辺との関わり少ない			
	その他		庭の造成など業者任せ話時間少ない			
実際の庭づくりの状況	庭全体での植物		庭全体での植物の有無、前庭での花作り比率低い	・園芸品種を作る傾向 ・野菜が多い ・雑草も多い	・境界の中により多くの花があり、立体的な花の飾り方をする	園芸品種を作る傾向 野菜が多い
	庭にある構造物				・テーブル、ベンチ ・トリス、フェンス	・テーブル、ベンチ
総合評価			全般的に消極的、時間がないのがネック	自分のための庭づくり、交流に対する動機は低い、庭を介したコミュニケーションが無意識的に存在。無意識的に街の景観に貢献している	花のまちづくりを進める上で情報提供者や住民を引っ張っていくリーダーとしての役割を持っている	美しさと食べ物の両方を求めて庭づくりをしている。庭の知識不足が集団の取り組みを阻害している可能性がある

表2-2 庭づくりの動機からみたガーデナーのタイプ分け³⁾

いずれの研究においても、ガーデナー意識をタイプ分けする基準として用いられていたものは、ガーデニング(庭づくり)の動機および目的であった。また、これらによりタイプ分けされた集団は、ガーデナーの属性や実際の取り組みなどについても、異なる特徴を持っていることが示されている。

2-2 一般ガーデナーの定義と類型化

2-2-1 ガーデナータイプ分けの方法

既往論文はいずれもある一つの集団や自治体を対象としており、それらの結果をそのまま一般的なガーデナータイプとして定義づけることはできない。そこで本研究では既往文献を踏まえた上で、一般ガーデナーの意識特性について改めてタイプ分けを試みることとした。

そこで、既往論文でタイプ分けに用いられていた、庭づくりの「目的」と「動機」に注目した。これらをより明確に表すものとして「ガーデナー自身が庭を見る視点」と「ガー

デナー自身が自分の庭やガーデニング活動の中で重視しているもの」の2点に注目した。この2点に基づいて、タイプ分けのために用いる「軸」を抽出し、一般ガーデナーのタイプ分けを行った。

庭を見る視点

第一の軸は、ガーデナーが地域社会において、自分の庭や自身のガーデニングをどのように位置付けているかという「ガーデナーが自身の庭・ガーデニングを見る視点」に基づき作成した。軸として「マクロ的視点 ミクロ的視点」を抽出した。

「マクロ的視点」とは、自分の庭や活動が地域の景観や緑化活動の一部を構成しており、自身のガーデニングが与える影響が、自分の庭を越え公的な空間にも及ぶと考える視点である。公空間への「はみ出し」や地域の緑化活動への参加などは、この意識が行動となって表れている場合が多いと考えられる。

一方「ミクロ的視点」とは、自分の庭はあくまで自分のものとする視点である。マクロ的視点のガーデナーに比べて、意識的な「はみ出し」なども少ないと考えられる。自分のガーデニングが周囲に影響を与えているとはそれほど認識しておらず、自己満足的にガーデナーを楽しむ人を指している。

庭づくりの中で何を重視しているか

第二の軸は、庭づくりにおいて重視している点に注目した。これは「モノ 景観」という軸に分けることができた。

「モノ」とは、花や苗、株、果実などを指す。「景観」とは、手に取ることができない美しさなどをさしている。すなわち「モノ重視」とは、実際手にできるモノに価値を見出している状態であり、「景観重視」とは、自らの庭づくりにおいて、その美しさなどに価値を見出している状態である。

2 - 2 - 2 一般ガーデナーのタイプ分けと概要

前項で述べた二つの軸を組み合わせることにより、一般ガーデナーを「地域展開タイプ」「交流タイプ」「作品づくりタイプ」「モノづくりタイプ」の4つに類型化することができた(図2-1)。

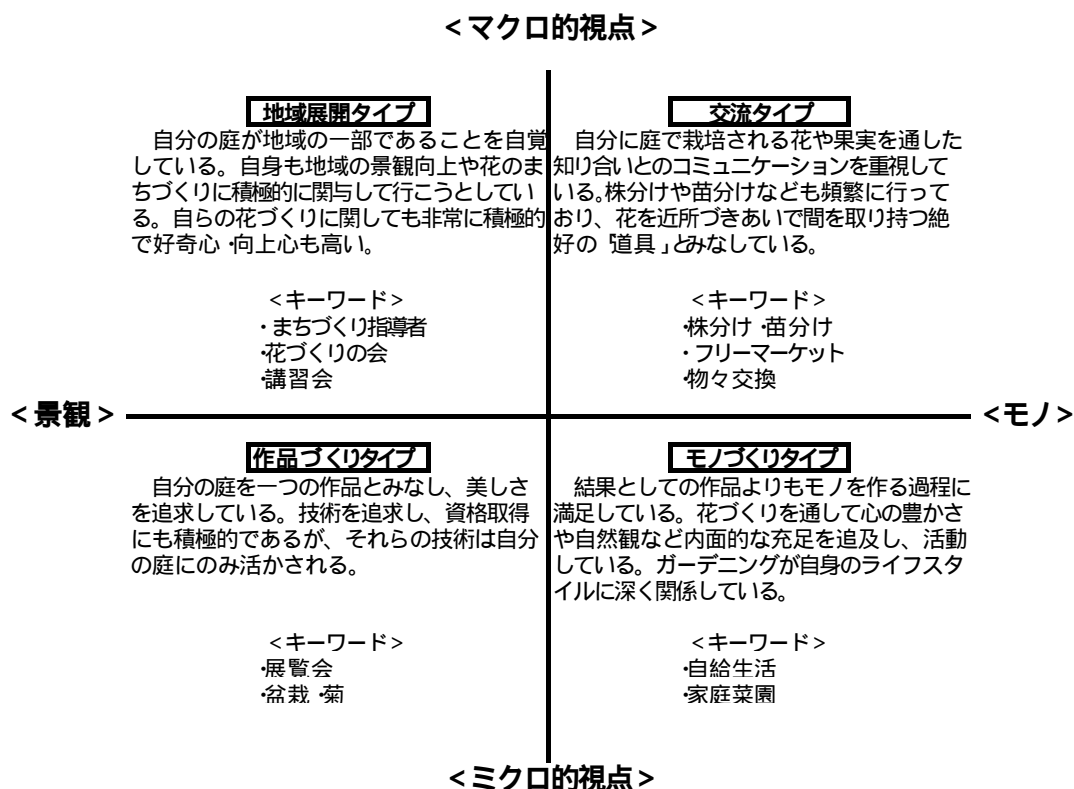


図 2-1 一般ガーデナーのタイプ分け

地域展開タイプ（マクロ×景観）

地域展開タイプは、自分の庭が地域の一部として認識しており、ガーデナー自身も地域景観の向上や花のまちづくりに努めようと意識している。自らの花づくりに対しても非常に積極的で好奇心・向上心も高く、コンテナなどを道路にはみ出しておき、道行く人を楽しませることなどを庭づくりの動機としている。

交流タイプ（マクロ×モノ）

自分の庭で栽培される花や果実を媒介として、他人とのコミュニケーションに積極的な姿勢を持つのが交流タイプである。株分けや苗分けなどに積極的であり、花を近所づきあいで間を取り持つ絶好の道具とみなす傾向にある。地域展開タイプが他人と「景観」を共有するタイプであるのに対し、交流タイプは主に「モノ」を共有するタイプといえる。

作品づくりタイプ（ミクロ×景観）

作品づくりタイプは自分の庭を一つの“作品”とみなし、その美しさを追求している集団である。技術を追求し、資格取得にも積極的であるが、それらの技術は自分の庭のみに活かそうと考える傾向にある。自ら意図しているわけではないが、結果として地域の景観向上に役立っていることもある。

モノづくりタイプ（ミクロ×モノ）

モノづくりタイプは、結果としての作品よりもモノを作る過程に価値を見出すタイプである。花づくりを通して心の豊かさや自然観など内面的な充足をより重視する傾向にあり、ガーデニングが自身のライフスタイルに深く関係していると考えられる。

これらの軸を元に、コンクール一次審査通過者の意識特性の把握、および一般的なガーデナーと一次審査通過者の関係付けをおこなう。

2 - 3 「『花の都ぎふ』花かざりコンクール」についての調査方法

続いて、「『花の都ぎふ』花かざりコンクール」の調査方法について述べる。

2 - 3 - 1 文献調査

まず、「『花の都ぎふ』花かざりコンクール」についての基本的な情報を得るために、以下の資料をもとに文献調査を行った（表 2-3）。

表 2-3 文献調査について

調査資料		調査内容
中日新聞	98/10/18・00/11/17	■ コンクール関連情報の収集
岐阜新聞	92/04/08・92/09/30・ 93/03/17・93/11/03・ 94/10/02・95/10/01・ 95/10/13・95/10/26・ 99/10/20・00/11/17	■ 『花の都ぎふ』花かざりコンクールの報道のされ方
花の都ぎふだより	No. 1～29	■ コンクール関連情報の収集 ■ コンクール入賞者一覧

2 - 3 - 2 ヒアリング調査

（１）コンクールに関するヒアリング調査

次に、「花の都ぎふ」花かざりコンクールの概要と現状を調査するために、次の方々にヒアリング調査を行った（表 2-4）。

表 2-4 ヒアリング調査について

ヒアリング実施日	ヒアリング対象者
2000年8月8日（火）	財団法人花の都ぎふ花と緑の推進センター足立葉子さん
2000年9月14日（木）	岐阜県安八郡安八町企画調整課渡部登喜子さん
2000年9月14日（木）	花の都ぎふ『花かざりコンクール』個人部門入賞者2名、企業部門入賞者1名（いずれも女性）
2000年12月4日（月）	花かざりコンクール審査委員栗谷本征二さん
2000年12月4日（月）	花かざりコンクール表彰イベント参加者（応募者含む）5名

(2)「花の都ぎふ」花かざりコンクール一次審査通過者の意識特性について

また、第9回「花の都ぎふ」花かざりコンクールの表彰イベント（コンクール表彰式、シンポジウム「『花の都ぎふ』花かざりコンクールの歩みと今後の展望」および交流会）に参加し、イベントに参加していたガーデナー5名（いずれもコンクール応募者であり、一次審査通過経験者）へヒアリング調査を行った（表2-4）。

2-4 花かざりコンクール一次審査通過者の意識特性についての調査方法

2-4-1 調査目的

文献およびヒアリング調査での現状把握を踏まえ、コンクール応募用紙を対象とした分析をおこなった。これはコンクール一次審査通過者のガーデニングや庭に対する意識や公への意識を把握することを目的としている。コンクール一次審査通過者の意識特性を浮かび上がらせることから、ガーデニングコンクールやガーデニングの実態を把握する。

2-4-2 調査方法

本調査では分析対象としてコンクール応募用紙を用いる。応募用紙とは、ガーデナーの属性（年齢、居住地域）をはじめ、庭やガーデニングに対する思いが表れているものである。ガーデナーは各市町村の窓口を始め、コンクール主催者である花と緑の推進センターから、応募用紙を受け取り各自が記入後それらの窓口をとおして申し込むことができる。応募用紙には自己PR欄という自由記述形式の部分があり、それらを調査対象とするが、これらはアンケートやヒアリング調査に見られる誘導尋問的性格を和らげることができ、よりアピールとしての意識を把握できるものと考えられる。しかし、逆に、文字による表現形式を取ることで、読み取れる意識について限界が生じることにもなる。この点に関しては、本調査と並行して行った一次審査通過者へのヒアリング調査の結果を考慮して補うものとする。このような調査方法の有効性や限界性を考慮に入れて分析をおこなう。

2-4-3 調査対象

調査対象としては、「花の都ぎふ」花かざりコンクール第8・9回個人部門応募者のうち、一次審査通過者計154名の応募用紙を用いた。一次審査は第8回からおこなわれるようになったが、第8回と第9回では審査基準がやや異なる（1-3-2参照）。そういった審査基準の差異が集団の傾向にどのような影響を及ぼすかをみるため、両年度の一次審査通過者を対象とすることとした。そのうち、他薦であり応募者自身が記述していないもの、自己PR欄に記述がないものなどガーデナーの意識を読み取ることが不可能であると判断した6名分の応募用紙については対象から除外し、148名を分析の対象とした。

2 - 4 - 4 応募用紙の構成

応募用紙の構成は以下のとおりである（図 2-2、2-3）。

属性（住所・氏名・年齢無記入・ガーデニング歴・実施人数・自薦/他薦他薦の場合は推薦者名）

自己 PR 欄（自由記述。500 文字程度）

庭の写真（遠景・中景・近景各 2 枚ずつ）計 6 枚

各写真に対するコメント、撮影年月日・撮影場所

Figure 2-2 shows the front side of the application form. It features a header with the title '応募用紙' (Application Form) and a table for personal information. Below this is a section for '自己PR欄' (Self-PR Column) with a red box highlighting the writing area. To the right of the PR column are six small illustrations of people gardening, each with a caption.

図 2-2 応募用紙表面

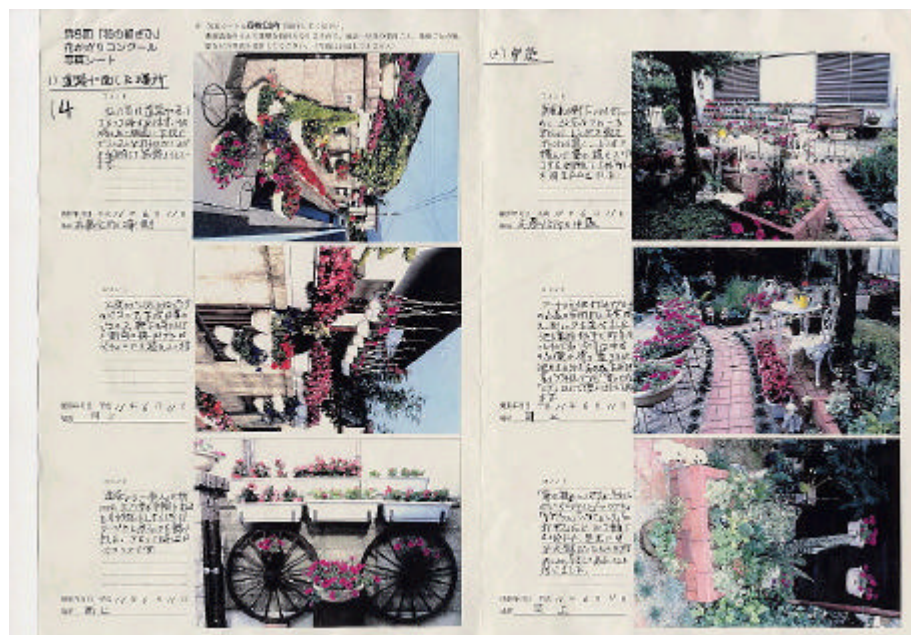


図 2-3 応募用紙ウラ面

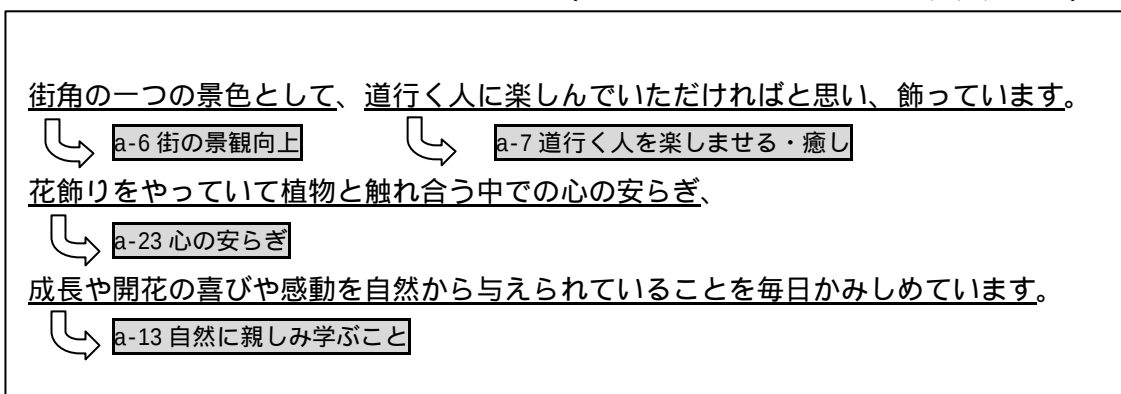
2 - 5 分析方法

記述の抜き出し

カテゴリーの設定に関しては、まず応募用紙自己 PR 欄から、文章を「ガーデナーの意識や庭づくりへの取り組みを読み取ることができると判断したもの」に区切り、それを「記述」として抜き出した。さらに個々の記述について似たもの同士をまとめ、最終的な 107 のカテゴリーを決定した。記述カテゴリーを大きく分けて「A: 庭づくりの動機」(表 2-5)、「B: 庭づくりの意識」(表 2-6)、「C: 庭づくりの取り組み」(表 2-7)、「D: 庭の状況」(表 2-8)、「E: ガーデナー自身」(表 2-9) の大カテゴリーにまとめた。

応募用紙自己 PR 欄の記述の抜き出しはこれら 107 のカテゴリーに沿っておこなった。記述の抜き出しの単位は原則として一文としているが、一文に複数の記述が含まれていると判断した場合は、異なる記述として個々に抜き出し、カテゴリー分けの対象とした(図 2-4)。そのため、文章数と記述数は同数とは限らない。抜き出しの際には記述数をカウントし、カテゴリー内の記述の「有無」ではなく「量」を記した。また、花かざり実施者が複数の場合、応募者の欄は原則として代表者のみの名前を記述することになっているが、例外として複数の名前が記述されている場合(夫婦、母娘など)は、年齢、ガーデニング歴など年齢が上の人物の属性のみを考察の対象とした。

図 2-4 自己 PR 欄における記述抜き出しの例(カテゴリーについては表 2-5, 6, 7, 8 参照)



単純集計

集団としての傾向をみるために、応募用紙記述データからガーデナーの属性およびカテゴリーについて単純集計をおこなった。

「花の都ぎふ」花かざりコンクール一次審査通過者のタイプ分け

一次審査通過者の差異を考慮するためにクラスター分析をもとにタイプ分けをおこなった。これはタイプに分類することによって、一次審査通過者ガーデナーが抱く様々な意識の違いをより明確にし、それらから全体の意識特性を考察することが可能であると考えたためである。

- まず、応募用紙記述の 107 のカテゴリーのうち、庭づくりへの動機（表 2-5）と庭づくりの取り組み（表 2-7）のうち庭づくりの留意点に関する記述を軸（図 2-1）にあてはめてグループ化した。この結果、庭づくりの動機を「マクロ」、「マクロ×景観」、「景観」、「マクロ×モノ」、「モノ」、「ミクロ×モノ」、「ミクロ」の 7 つ（ミクロ×景観に当てはまるカテゴリーは存在しなかった）、庭づくりの留意点を、「景観」、「モノ」の 2 つのグループにまとめることができた。
- 類型化は記述の「量」を考慮するためクラスター分析を用いた。また、変数には上記の 9 つのグループ内の記述の合計を、全記述数で割った「記述ポイント」を使用した。これは記述者の性格が記述の量にも反映されると判断したためである。（クラスター分析については SPSS 10.0J for Windows を使用。）
- さらに、クラスター分析により類型化された集団をもとにタイプ分けをおこなった。

属性別傾向の把握

公への意識に関する記述をはじめとする記述カテゴリーと各タイプ等の相関をみた。

表 2-5 「A 庭づくりの動機」に関する記述カテゴリー

大カテゴリー	グループ	カテゴリー	コメントの典型例
A 庭づくりの動機	マクロ	a-1 庭に關した話し相手の影響・周囲の反応を楽しみにしている	「ご近所の皆様の毎年楽しみにしてますの声に励まされ・・・」
		a-2 近所の人たちとの対話（日常）	「道行くお年寄りなどは足を止めて花づくりの話に花が咲きます」
		a-3 見学者・知らない人との交流（非日常）	「花を通じて人との交流が広がり、新しい出会いもあり・・・」
	景観	a-4 庭をきれいに保つこと・緑を絶やさない・見飽きない	「とにかく家の周りをいつも花いっぱいにしておきたいという気持ちでやっています」
		a-5 植物や庭の美しさから得る喜び・花が好き	「私はバラが好き」
	マクロ×景観	a-6 街の景観の美しさへの貢献	「花のまちづくりの一環として・・・」
		a-7 道行く人の目を楽しませる・癒し	「散歩している人たちに楽しんでいただけるようにしたい」
	マクロ×モノ	a-8 もののやり取り	「株の交換や情報交換が行われ・・・」
		a-9 収穫の楽しさ	「収穫祭行って・・・」
	モノ	a-10 生花やドライフラワー・リース・押し花・ハガキを作る楽しみ	「生花はドライフラワーやクリスマスリースに・・・」
		a-11 育てる喜び・楽しさ	「花の成長は子育てしているようでとても楽しみ」
		a-12 友人や家族とともに活動する楽しさ	「庭を通じて息子の嫁との語らいがあり、集いもあります。」
	ミクロ×モノ	a-13 自然に親しみ学ぶこと	「成長や開花の喜びや感動を自然から与えられている」
		a-14 土に触れることの楽しさ	「土いじりが好きで・・・」
		a-15 ゆとりのある生活・花に囲まれた暮らし・庭の改造	「たくさん花の種類を飾って花でいっぱいになりたい」
		a-16 健康のため・老化予防・リハビリ	「朝早起きができ、毎日健康的」
		a-17 自分自身の食べ物を育てる喜び	「ここは実りの庭」
		a-18 生命力が感じられる	「種から育て開花までのメカニズムを楽しんでいます」
	ミクロ	a-19 計画するのが楽しい・自分の思いを表現・自分なりの楽しみ方	「私なりに花飾りをたのしんでおります」
		a-20 自分の趣味の一つ 生活の一部・ライフスタイル	「緑豊かな自然の中での花作りが私の生きがいです。」
		a-21 できあがったときの喜び・達成感	「すばらしい花をつけてくれたときは一人満足しています。」
		a-22 もてなしの場を作る・花嫁様	「訪れた人々の顔が笑顔のような花がざりを續けていきたい」
		a-23 心の安らぎ・リラックス・やさしい心を育てる・くつろぎ	「私の気分を和らげてくれるのは花」
		a-24 日常生活の気晴らし・ストレス解消	「一日の疲れも花と会話しているうちに元気が戻ります。」
		a-25 四季が感じられること	「垣根のキンモクセイは秋の香りを楽しんでいます」
		a-26 外で過ごす気持ちよさ	「花いじりが好きで、毎日外に出ています。」

表 2-6 「B 庭づくりの意識」に関する記述カテゴリー

大カテゴリー	グループ	カテゴリー	
B 庭づくりの意識	近所の庭・コミュニティ（自分の家以外）への関心	b-1 近所の庭・コミュニティ（自分の家以外）への関心	
	（自分の中での）変化・反省点	b-2（自分の中での）変化・反省点	
	困った点やマイナスの点	b-3コスト	
		b-4台風・雨・風・冬越し	
		b-5気候	
		b-6入居時からの開拓・土作り	
		b-7害虫・獣・モグラ	
		b-8草取り	
		b-9スペース（広い・狭い）	
		b-10旅行にいけない	
		b-11花泥棒	
		b-12その他	
	これから（の庭づくりに）望むこと	ミクロ 自分の庭のみを意識	b-13来年への豊富・モノ（土作り・テーマカラー・種取り）
			b-14来年への豊富・景観飾り方
			b-15庭の広さ
			b-16ガーデニング知識の増加・勉強・挑戦
			b-17ずっと守りつづけていくこと
			b-18海外のガーデニングを見に行きたい
			b-19その他
		マクロ コミュニティや他を意識	b-20花いっぱいのもちづくり
			b-21近所の人や道を通る人たちにも楽しんでもらえるような庭を造りたい
			b-22近隣の花かざりのお手伝い・花かざりの輪を広げる
			b-23仲間づくり
			b-24日本風家屋の一つのモデル的存在
			b-25その他

表 2-7 「C 庭づくりの取り組み」に関する記述カテゴリー

大カテゴリー	グループ		カテゴリー
C 庭づくりへの取り組み	庭づくりの留意点	景観	c-1 演出
			c-2 テーマ
			c-3 デザイン・組み合わせ・家とのバランス・配置
			c-4 色のコーディネート
			c-5 飾りの工夫・小道具（つる・コンテナ・トレリス・プランター・直植）
			c-6 環境との調和・緑との調和・自然を生かす
			c-7 自然観を損なわない
			c-8 新しい花・珍しい花
			c-9 景観その他
		モノ	c-10 リサイクル・廃物利用
			c-11 環境に配慮・自然の恵みは自然に返す・適応・適した場所に配置
			c-12 なるべくお金をかけない
			c-13 季節を表現・四季を通じて楽しめる
			c-14 地域風土を生かす
			c-15 無農薬
			c-16 春になるのを待つ/去年のうちに作っておく・ストック
			c-17 従来のものを生かす
			c-18 モノその他
			c-19（日当たり）
	庭の造成主体	その他	c-20 自分ひとりでやりとげた
			c-21 協力者（家族）の存在
	世話時間		c-23 世話時間
	庭づくりのきっかけ		c-24 庭づくりのきっかけ（庭づくりと私）
	庭づくりの活動	花遊び	c-25 花遊びに苦戦
		日ごろの活動・維持管理	c-26 土作り・苗作り・育てる・挿し芽・宿根草種・蒔き
			c-27 手入れ水やり・花がら摘み・木を切る
			c-28 花を運ぶ
			c-29 花壇・飾り道具の作成
			c-30 写真をとる
		使用している肥料	c-31 鶏糞・牛糞
			c-32 堆肥・緑肥
			c-33 家庭で作った堆肥
			c-34 骨粉
			c-35 その他
		勉強・研究・	c-36 本などから勉強
			c-37 他の家へ見学・旅行
			c-38 その他
			c-39 地域の花づくり活動への参加
	自宅外での活動		c-40 都市計画策定懇話会への参加
			c-41 花壇の審査への参加
	コンクール		c-42 町のコンクールに応募
			c-43 コンクールを応募
			c-44 コンクール応募のきっかけ

表 2-8 「D 庭の状況」に関する記述カテゴリー

大カテゴリー	グループ	カテゴリー
D 庭 の 状 況	状 態 の 説 明	d - 1 花 の 名 前 ・ 数
		d - 2 木 ・ 芝 生
	実 用 作 物 の 栽 培	d - 3 野 菜 ・ 果 物
	花 に ま つ わ る エ ビ ソ ー	d - 4 ハ ー プ
	そ の 他	d - 5 花 に ま つ わ る エ ビ ソ ード
		d - 6 そ の 他

表 2-9 「E ガーデナー自身」に関する記述カテゴリー

大カテゴリー	カテゴリー
E ガ ー デ ナ ー 自 身	e - 1 ガ ー デ ニ ン グ 歴
	e - 2 資 格 ・ 職 業
	e - 3 コ ン ク ー ル 受 賞 歴
	e - 4 家 の 場 所 ・ 居 住 年 数
	e - 5 地 域 性
	e - 6 そ の 他 (家 庭 の 事 情)

〔引用文献〕

- 1) 杉尾邦江:ニュージーランド・クライストチャーチに於ける私有地緑化（ホームガーデン）の実態（その2）- ニュージーランド人と日本人の住宅庭園景観に対する意識について, PREC STUDY REPORT, 4, 46-57 (1999)
- 2) 林まゆみ・塩谷元宏・? 京緑: ガーデニング愛好者にみられる緑豊かなまちづくりへの活動とその促進要因, 環境情報科学論文集, 14, 85-90 (2000)
- 3) 川根あづさ・愛甲哲也・浅川昭一郎: 北海道恵庭市恵み野を事例とした住民の庭づくりに対する意識と取り組みについて, ランドスケープ研究, 63 (5), 695-700 (2000)